

## 令和7年度 府立清明高等学校 学校経営計画(スクールマネジメントプラン) 実施段階

学校経営方針(中期経営計画)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
<p>「自分を知り、人とかかわり、ポジションをとる人」を育成する。 そのために、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>相互にリスペクトする。</li> <li>安心して自ら選び、学ぶことができる環境づくり。</li> <li>アウトプット型学びの推進。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>オンデマンドを活用した自由進度学習の実施や通信教育の試行、探究的な授業の充実などにより生徒の学習の個別最適化が進み、安心して登校する意欲が高まった。今後も生徒が自ら学ぶ力を発揮し、学ぶ楽しさを実感できるためのさらなる工夫が求められる。</li> <li>学校行事の内容の充実や地域連携の取組、年次をまたいだ総合的な探究の時間の取組、生徒が発信する活動の充実等により、学校生活への積極的な参加が見られた。今後も主体的・協働的な活動や社会参画の機会の充実を図ることが望ましい。</li> <li>新しいタイプの教室やチルスペースの拡充、ワーキンググループ活動の継続等により、学習者起点による学校の魅力化が進んだ。</li> <li>学校DE&amp;Iを明言した各種研修や発信、通級指導の改善等により、個々の生徒に応じた指導の充実を図ることができた。今後もあらゆる教育活動のユニバーサルデザイン化に向け、外部連携や校内研修をより発展的に推進していくことが求められる。</li> <li>持続可能な教育活動を実現するため、長時間労働の縮減が進んだ。「働きやすさ」や「働きがい」を感じつつ、健康や精神的な充足感を得られる職場づくりの継続が求められる。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>生徒が自ら学ぶ力を発揮して「学ぶ楽しさ」を実感できるよう、個別最適な学びと協働的な学び、指導と評価の工夫改善や授業のDX化の研究・実践を進める。</li> <li>学校内外での新たなチャレンジやアウトプットの機会の創出と、探究的な活動を発展させ、生徒の主体的・協働的な活動や社会参画の機会を充実させる。</li> <li>「生徒をリスペクトする」「生徒に自信を返す」という信念を共有し、内外の評価を活用しつつ、学習者起点による学校の魅力化を図る。</li> <li>教育活動のユニバーサルデザイン化を充実させるための本校ならではの手法を研究・実践する。</li> <li>ダイバーシティとワークライフバランスに係る取組を進める。</li> </ol>

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
組織・運営	学校の魅力化に係る校内組織の活動の推進	シン・会議を中心とした校内ベンチャーの推進、ワーキンググループ活動から上がってくるアイデアを活かした新しい事業の展開・アウトプット、授業のDX化の推進を図る。	A	シン・会議が中心となり、様々な校内ベンチャーの検討・導入を進めた。地域連携の新規事業を検討・実行し、生徒のアウトプットの機会を創出して、学校の魅力化につなげた。また学校HPのリニューアルやつばめノートの開始など学校の魅力発信の工夫をした。さらにAI活用に関するICT研修を実施し授業のDX化を推進した。
	教育活動のユニバーサルデザイン化の実現	生徒や教職員の多様性を尊重しながら主体的な教職員研修を進め、本校ならではの手法を研究・実践する。	A	「清明高校の謎を解く!」の書籍出版を記念してDE&Iフロンティアキャンプを実施した。シン・会議が中心になり研修方法を工夫して主体的な教職員研修を実施した。また、適宜教職員がDE&Iに関連する情報を中心に情報収集・共有を行い、学校全体で教育活動のユニバーサルデザイン化のための研究を進めた。
学習支援	授業のユニバーサルデザイン化の推進	以下の取組について教職員内で研究・実践・検証し、すべての生徒が能動的・主体的に学ぶことができる環境を整える。また、研究・実践内容についてティーチャーズバイブルにまとめる。 ・個別最適な学習(自由進度学習)の進め方 ・多面的・総合的な評価のあり方	B	自由進度学習について、計3回教職員研修を実施し、授業や評価方法について研究・実践した。生徒の意見も取り入れながら検証することで、より主体的に学ぶことができる環境づくりを行うことができた。ティーチャーズバイブルの作成に取りかかった。
	学ぶ楽しさの提供	生徒が「わかる」「できた」「もっと」という体験を通じて学びを捉え直し、学ぶ楽しさを感じることができるように自学自習の学び直し科目「フレスタ」の改善および充実を図る。また、フレスタの効果について検証し、授業全体の質の向上に向けてフィードバックする。	A	学び合いの教室を2つの普通教室に、教員も3人から4人に変更し、学びの充実を図った。生徒はAI学習アプリを用いて目標や計画を立て学習を進めるシステムが機能している。次年度以降はこのシステムを他の授業への波及に努める。
生徒支援	チャレンジ・アウトプットの機会の創出	生徒が主体となり学校外の諸機関と協働し、DE&Iを念頭に置いた各種行事やイベントを一層発展させる。	A	生徒主体による一般企業と協働したファッション講座の開催、学校祭や地域と連携したせいめいコトおこし隊、京都探究エキスポにおける清明ワーキンググループの取組紹介等ができた。
	学習者起点による学校の魅力化	在校生の多様なニーズを幅広く把握する方策を生徒会や清明ワーキンググループ等を中心に検討・実行し、生徒・教員・保護者等の協働による環境調整に生かす。生徒によるチルグッズ等の活用が進むように、情報発信方法について検討する。	A	多様なニーズ把握に向けて、従来より実施するアンケート以外に対話による困りごとの共有を行った。チルグッズは、カタログ制作と配信、ショート動画によるInstagramでの広報等を行い、生徒の認知や活用件数が増えた。

評価領域	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
進路支援	DXを活用した進路学習	オンデマンド化した説明動画等を活用して、進路学習の個別最適化を図る。	A	A	進路別に作成した説明動画を生徒が主体的に選択・視聴する進路学習を実現した。生徒向けにTeams保存により、いつでも動画視聴できる学習環境を構築した。
	進路に係る情報発信の充実	校内の進路資料スペースやTeams、Instagramを活用して、進路についての情報発信を行う。	A		進路資料スペースでの大学・専門学校パンフレット、過去問等の詳細な情報提供を実現した。またTeamsでオープンキャンパスや各種進路イベントの案内など、タイムリーな情報配信を実現した。保護者に向けてもYouTube限定公開により、進路情報配信体制を確立した。
教育相談	多様な生徒が「ポジションをとる」経験を積める支援的環境の構築	ボランティア清掃や委員会活動を活用し、安心していきいきと過ごせる学校づくりに多様な生徒が主体的にかかわれるしきみを作り、「やってみたい」を応援する風土を実現する。	A	A	ボランティア清掃の新たなしきみや保健委員会の活躍の場を設定し、生徒が主体的に活動できるように工夫した。次年度以降は主体性を重んじながら学校の衛生環境との両立を図る仕組みの実現に努める。
	教職員の専門性を高め合い、学び続ける協働的な校内文化を育てる	個別の支援についてミーティングで検討し、教職員が安心して生徒とかかわれる支援体制を進める。また、引き続き良い対応例やツール等を発信し、教職員間で共有する。	A		コンサルテーションやミーティングの結果について迅速にわかりやすく共有することや、主体的な研修の場を創出することで、教職員の協働的な校内文化の育成に貢献した。
総務企画	生徒主体の広報活動の充実	・広報活動の活発化のため、生徒ボランティアの募集を通年行い、活動に参加しやすい環境を整える。 ・双方向型オンラインイベントの参加者を増やし、生徒目線の学校生活を広く発信する。 ・探究活動を生徒が自信をもって発表できるようサポートを行う。	A	A	生徒ボランティアの通年募集により、F年次の参加も実現し、組織の継続性の確保や部活動・授業の日々の発信により、生徒目線の広報などが展開できた。つばめラジオは昨年同様年2回実施し、リアルタイム配信とVOD配信の組み合わせで、視聴者ニーズの多様化に対応できた。探究活動では、京都探究エキスポで発表だけでなく生徒のみで質疑応答までやり遂げ、生徒の主体性・プレゼン力が発揮された。
	生成AIの活用による授業の質向上と業務効率化の推進 DX化に向けた環境整備	・生成AIを活用した生徒の学習支援の方法を研究し、校内全体での活用を促進する。 ・生徒が生成AIに関するICTスキルを身につける機会を提供する。 ・ICTを効率的に活用できるようにインフラの整備を進める。	A		生成AIの活用に関する教職員研修を企画・実施し、授業改善や校務効率化につながった。さらに生徒自身が生成AIを活用する教育活動も見られた。機器の導入と活用方法のマニュアルを整備することで、ICTを活用しやすい環境づくりを行った。生徒系ネットワークについては更新を行い、学習環境の安定化を図れた。生成AIチャットサービスを導入し、文章、画像等の生成を全職員が行うことができる環境を整えた。
	読書活動を支援し、主体的な学びを支える学校図書館運営	探究活動や自主的・主体的な学びを支える「学習・情報センター」としての機能の充実を目指し、さまざまなニーズに対応した蔵書や環境の整備を進める。	B		日々のレファレンスや、選書会、全校アンケート等を通し様々なニーズを捉え、蔵書の充実を図った。また、教科や授業と連携し、関連書籍を揃えたり授業成果の展示を行うなど、双方向での学校図書館活用ができた。安心して過ごす場所を提供することで居場所としてのニーズに応えることができた。
年次	F年次 生徒が学ぶ楽しさを実感し、学校生活の中で自信と社会的実践力を身に付けられるような学習環境の整備	多様な生徒の実態を加味し、総合的な探究の時間や特別活動、フレスタ等の授業内容や参加形態等を工夫する。また、小さな失敗をしながら安心して選択したりチャレンジ出来るための適切な支援や足場かけを行う。	A	A	各活動を希望制としたことで、生徒が自分に合った形で参加できる環境を整えることができた。加えて、実態に合わせた支援や足場かけを行うことで、チャレンジや失敗経験を積ませることができた。
	M年次 生徒のチャレンジしてみたいという気持ちを応援し、主体的に取り組む態度を育てる	学校行事や総合的な探究の時間などにおいて、これまで身に付けてきた知識や技術を生かしながら、学校内外の人と協働して取り組む機会を設定する。	A		各担任の声かけや各分掌が設定した環境によって生徒の主体的な取り組み意欲が向上した。協働して取り組むことで対人関係能力や自己肯定感が高まった。
	S年次 自分の役割を見つけ、将来への展望を考える機会の提供	学校行事やフレスタプラス、LHRを通して地域の人と関わることにより、多様な考えに触れ、積極的に社会に関わる機会を設定する。	A		1学期のフレスタプラスから2学期のつばめ祭まで新大宮商店街の方との交流の場を持つことができ、継続して関わることで交流に主体的に取り組む生徒の姿が多く見られ、地域の方からも非常に好評のうちに実施することができた。
	G年次 希望進路実現に向け、自ら判断し、挑戦できる機会の充実	特別活動や総合的な探究の時間、面談等を通して、将来像を描けるような働きかけや積極的な情報共有とともに、進路支援部と密に連携し、細やかな指導体制を構築する。	A		進路実現に向け、面談で生徒の方向性や困りごとを聞き取り、家庭や関係分掌、進路先、外部機関等と連携し、個に応じた指導を進めることができた。
事務部	学ぶ楽しさを実感し、安心して自ら選び、いきいきと学べる教育環境の整備	教科分掌と連携し、生徒1人1人が落ち着くことができる環境の整備やDX化推進のための設備更新等を行う。	A	A	各教科分掌や清明ワーキンググループ、シン会議と連携しながら新たなフレキシブル教室の整備やアクションカメラ、モバイルプロジェクターの購入によりDX化推進のための環境整備を行った。次年度以降も各教科分掌等と連携をしながら生徒ひとり一人が安心して学校生活が送れるよう環境整備に努める。

(評価の基準 A:十分達成できた B:ほぼ達成できた C:あまり達成できなかった D:ほとんど達成できなかった)

<p>学校関係者評価委員会による評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒や保護者対象の「学校満足度アンケート」の結果と照らしても、年度当初の学校経営計画に沿って、十分成果を出せていると思われる。</li> <li>・生徒の主体的・協働的な取組を推進し、授業や学校行事、学習環境が改革・改善され、生徒がより安心して登校できる様子が見られる。</li> <li>・病気療養児の通信教育、年次を超えた交流、地域連携、AI活用等、清明高校ならではの指導と配慮について学校DE&amp;Iの考え方を大事にして工夫・改善が進んでいる。</li> </ul>
<p>次年度に向けた改善の方向性</p>	<p>スクールポリシー、中期経営計画をもとに進めていく本校の教育活動を、以下のように発展・充実させていく。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1)生徒たちが安心して主体的に参加・発信できる教育活動を一層充実させる。</li> <li>(2)チャレンジやアウトプットの機会の創出や探究的な活動をさらに発展させていく。</li> <li>(3)学校DE&amp;Iのさらなる充実を図るため、教育課程の発展的な見直しを進め、教職員研修を充実させていく。</li> </ol>